

婦人科疾患について①

子宮の腫瘍性病変
について
～良性腫瘍

婦人科の腫瘍性病変について

- 子宮腫瘍

良性：子宮筋腫，子宮腺筋症，
子宮頸管ポリープ，子宮内膜ポリープ

悪性：子宮がん～子宮頸がん，子宮体がん
(内膜がん)

その他：絨毛がん，子宮肉腫

- 子宮付属器腫瘍

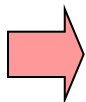
- ・ 卵巣腫瘍～良性，境界悪性，悪性（がん）

- ・ 卵管腫瘍

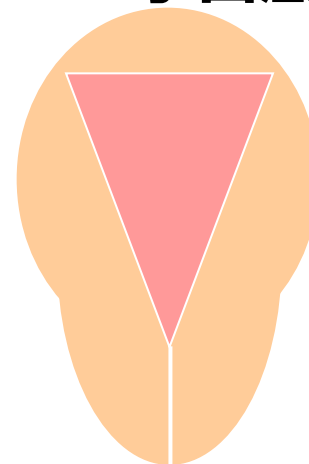
- その他

- ・ 膣腫瘍・外陰腫瘍

子宮の形態～各部の名称



子宮底部



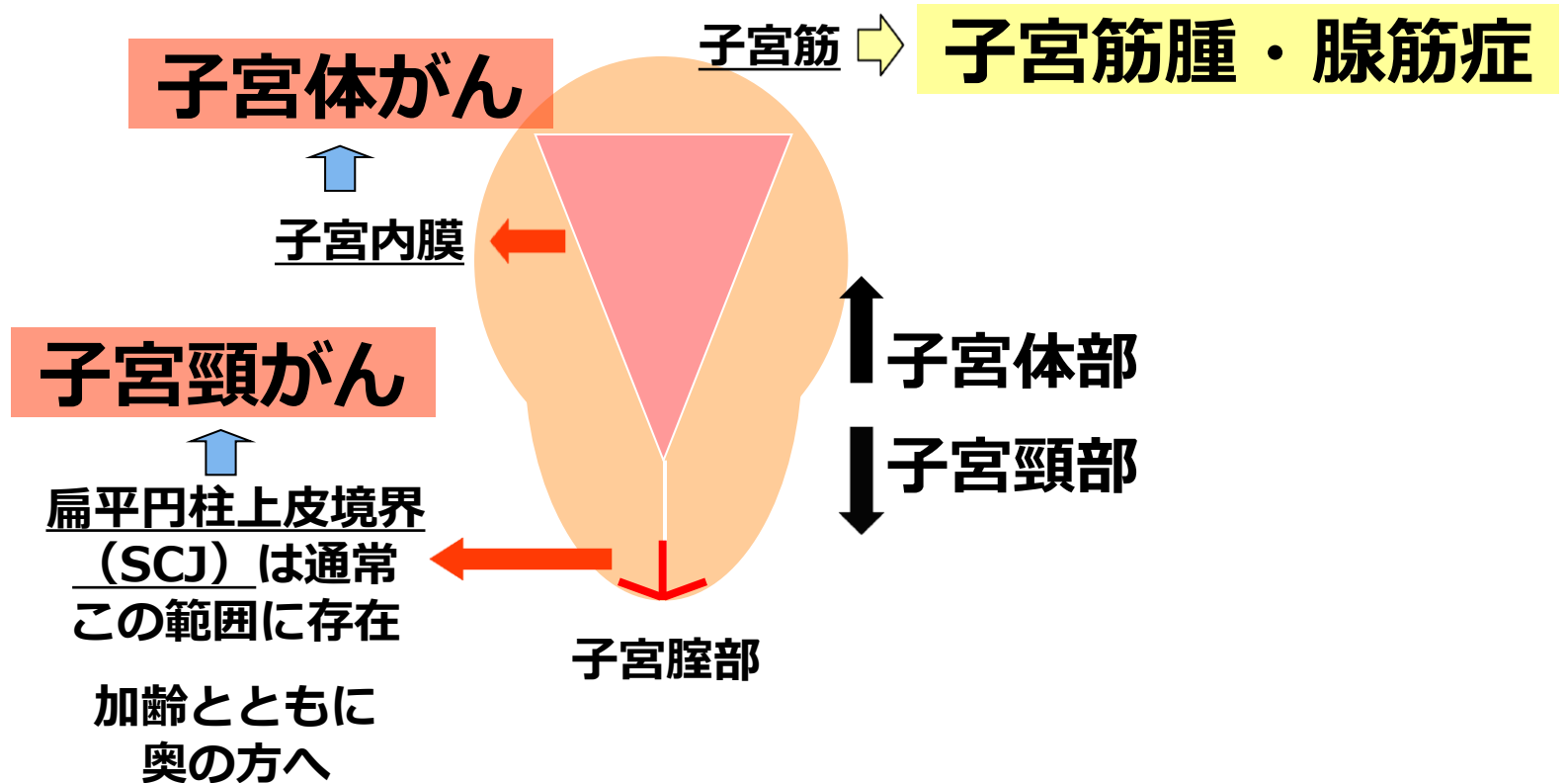
↑ 子宮体部

↓ 子宮頸部

子宮良性腫瘍について

- 子宮筋腫
- 子宮腺筋症 (← 子宮内膜症)

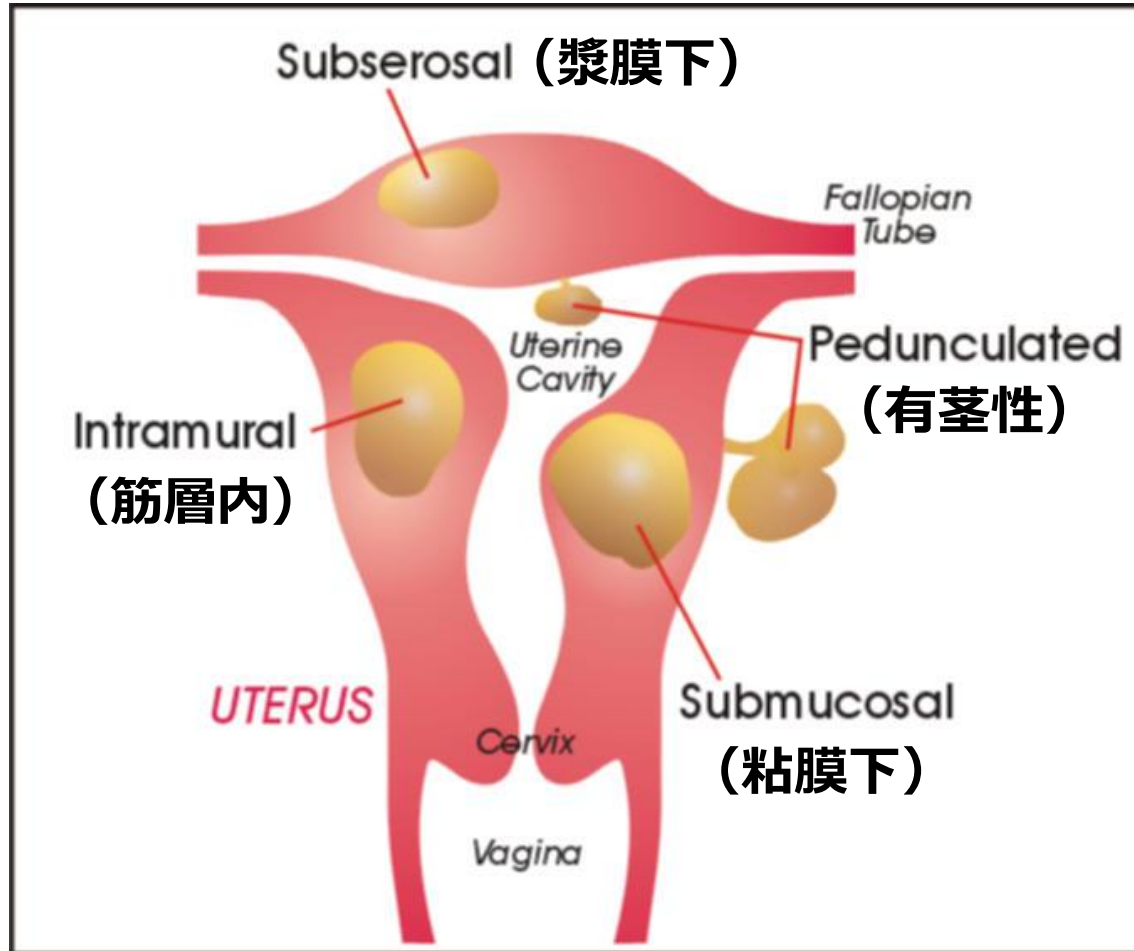
子宮の形態と腫瘍性疾患



子宮筋腫①

- 子宮筋腫とは
子宮筋にできる線維性のこぶ、原因は不明。
有病率は非常に高く、30歳以上の女性の
20~30%は筋腫を持つとされる。
しかし、その全員が治療を必要とするわけでは
なく、治療適応となるのは筋腫による何らかの
症状を持つ場合である。
- ✓ 何らかの症状とは
過多・過長月経（→貧血）
筋腫が原因と考えられる不妊、腹痛・圧迫症状
（頻尿など）など

子宮筋腫②~局在

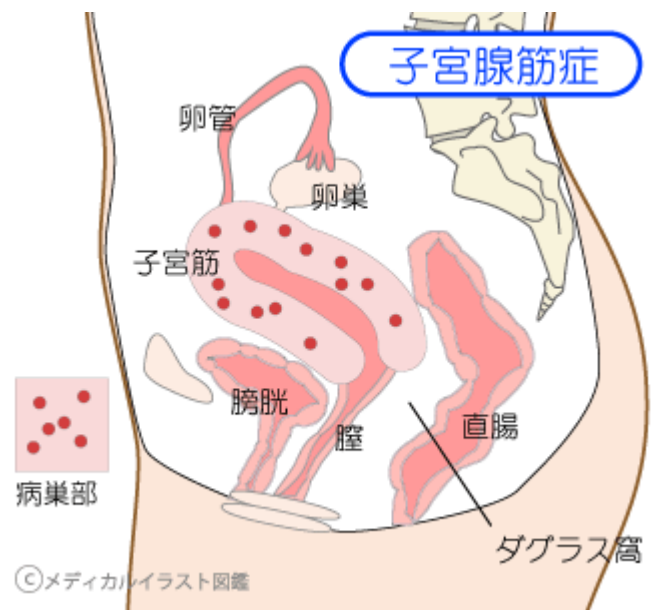


子宮筋腫③

- 子宮筋腫の治療
治療手段としては、
 - ①手術療法（子宮全摘術，筋腫核出術）
 - ②薬物療法（対症療法を含む）に区別される。
- 手術の方式（術式）
腹式（開腹），腹腔鏡補助，腹腔鏡下，腔式，子宮鏡下手術に分類できる。
筋腫の大きさ，位置，個数，患者背景，術者の技量などにより選択する。技術や医療機器の進歩により，腹腔鏡下で行なう機会が増えている。

子宮腺筋症①

- 子宮腺筋症とは
子宮内膜症の病変が子宮筋層内に発生したもの。
月経のたびに子宮筋層内で出血が起こり、子宮が瘢痕性に肥厚していく。
月経痛および過多月経の原因となり、日常生活に支障を来すこともしばしばである。
好発年齢は一般的には35歳以上である。



参考：子宮内膜症

- 子宮内膜症とは
子宮内膜組織が子宮外で発生・発育した状態。
月経のたびにその部位で出血が起こり、痛みが生じる。
腹腔内癒着や卵管閉塞，排卵障害から不妊症の原因ともなりうる。

卵巣に発生し卵巣が腫大すれば卵巣のう胞（内膜症性のう胞），子宮筋層に発生すれば子宮腺筋症となる。

子宮腺筋症②

- 子宮腺筋症の治療

症状の強い場合は治療適応となる。

筋腫と同様に手術療法と薬物療法に区別されるが、子宮全摘以外では根治を期待できず、非常に対応の難しい疾患である。

以前よりダナゾール徐放性子宮内リングの有効性が報告されているが、市販はされていず普及はしていない。

近年は子宮内黄体ホルモン放出システム（IUS＝ミレーナ[®]）による症状の緩和が報告され、
過多月経に対して保険適応となったこともあり、
近年急速に普及してきている。